

国語 第4学年 言葉から連想を広げて 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：一つの語から思い浮かぶことを広げ、その中から理由を添えて書く材料を選ぶ。連想を並べるだけで文章を終えない。B(1)ウの学習として、連想した語の図と、選んだ材料・理由を含む短い文章。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、自分の考えとその理由や事例との関係が分かるよう書き表しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：連想した語の図と、選んだ材料・理由を含む短い文章を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)ウに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：連想語だけを列挙する、友達の連想を間違いと判断する。これに対して、独自例として「雨」から音・場所・気持ちを思い浮かべ、選んだ語と体験の関係を短い文で説明する。経験が出ない児童は授業内で見聞きした場面から選ぶ。〔知識及び技能〕(2)アとB(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「その言葉から、その出来事を思い浮かべたのはなぜですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：連想した語の図と、選んだ材料・理由を含む短い文章は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：連想語だけを列挙する、友達の連想を間違いと判断する。独自例として「雨」から音・場所・気持ちを思い浮かべ、選んだ語と体験の関係を短い文で説明する。経験が出ない児童は授業内で見聞きした場面から選ぶ。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「その言葉から、その出来事を思い浮かべたのはなぜですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

